



藤沢市議会議長 佐賀和樹様

2021年5月24日

藤沢市鶴沼神明 4-10-26

ふじさわ・九条の会事務局長 吉塚晴夫



沖縄県南部の沖縄戦犠牲者の遺骨が含まれる土を
辺野古米軍新基地建設の為の大浦湾埋め立てに使うことに反対する陳情

【陳情項目】 辺野古米軍新基地建設の為に南部糸満、八重瀬の沖縄戦激戦地跡に残る犠牲者の遺骨が含まれる土を、大浦湾埋め立てに使うことに反対する意見書を国及び関係機関に藤沢市議会として提出することを求める。

【陳情理由】 沖縄県民の度重なる反対の意志表示にも関わらず、進められる米軍のための辺野古新基地建設工事、その工事に伴い大浦湾埋め立てに沖縄戦の激戦地である南部の土を使用することを、沖縄防衛局は公表した。

1945年3月23日沖縄戦開始以来、「軍民共生共死」のスローガンの下、沖縄県民は地獄の苦しみに落とされた。当時の県民の実に四人に一人が死に追いやられたのである。

沖縄本島南部は侵攻する米軍に、県民や日本軍が追い込まれた激戦地であり、戦没者の遺骨が今も眠る地域である。この遺骨収集は「ガマフヤー」などボランティアの人々により行われている。40年近く遺骨収集を続ける人からは「犠牲者には県民だけでなく、日本兵も米兵も朝鮮半島の人々もいる。遺骨が混じった土で米軍基地をつくるのは犠牲者への冒瀆である」という発言がされている。

当初防衛省、沖縄防衛局は本島北部や県外から調達した土砂で、辺野古沿岸部を埋め立てる計画であったが、昨年4月に変更し収骨が続く南部糸満市と八重瀬町を採取地として追加した。遺骨が混じった土が埋め立てに使われる恐れが強まっている。

沖縄辺野古新基地の建設に伴う民意の無視、蹂躪、更に沖縄戦犠牲者への冒瀆、これを座視することは人倫に悖る行為である。いま目前で行われようとしている非人道的行為に反対の意志を明確に示さなければならない。

以上、沖縄戦犠牲者の遺骨が含まれる土を、埋め立てに使うことに反対する意見書を国及び関係政府機関に、藤沢市議会として提出することを求める所以である。